

ワールド ウッド トренд

No. 2, 14 JUL 2014



ロシアの2014年第1四半期製材品合板等生産量

産業用木材チップを除き、2014年第1四半期におけるロシアの主要木材製品の生産量が前年同期と比べて増加していることは、ロシア連邦統計局の公表データにより明らかになった。

前年同期比で増加している主要木材製品のうち、包装用資材の生産量は、食品産業の旺盛な需要を背景に最も大きな伸び率が見せられている。特に、ダンボール紙及び単層ボードの生産量は最も急増しており、次にダンボール箱の生産量も大幅に増加している。また、非ダンボール紙パックの生産量は前年同期比で3割伸びたが、板紙生産量の増加は、僅か0.5%であった。その他の木材製品の生産量は、包装用資材の生産のような大きな伸びを示してはいない。木材パルプの生産量は著増したが、一方、木材チップの生産量は8%減少した。

製材品の生産量は、2011年に7%増、2012年に2.2%減、2013年に0.2%減で推移してきたが、今年第1四半期では前年同期比1.1%増加している。特記すべきことは、まくら木を含む割材の生産量が510万 m^3 に達しており、昨年1年間よりも1.1%多い。

ちなみに、2013年夏には、アルハンゲリスク地方のソロンバルスキー (Solombalskiy) の木材工場が製材機械を稼働し始めた。ボログダ地方では、投資計画の実施により、製材工場の製材、板材の年間生産能力が、それぞれ4万 m^3 、1.2万 m^3 に高めた。2013年9月に、アンガラ・イエニセイ (Angara・Yenisey) クラスターの建築構造材工場は、製材品、合板、単板、ペレット、紙パルプの総合的な生産を開始した。2013年11月に、プリアンガルスキー (Priangarskiy) の木材工場の能力増強が開始し、完成すれば製材能力が年間63万 m^3 にまで引き上げられる。この木材工場は、トルコ、シリア、日本およびEUといった国々へ

の輸出に目を向けている。

合板の生産は、経済危機の影響で2008年、2009年に前年比26%減少した後、2010年に経済危機前の水準に回復し、2011年、2012、2013年にそれぞれ12%、6%、4%伸びている。今年の第1四半期は、生産量の約半分を占める輸出量の増加によって伸びており、前年同期比3.1%増の85万m³に達している。ここ5～7年にわたって、ロシアの合板業界のひとつ特徴が、年産2万m³満の小規模な合板用単板メーカーが数多く現れてきた。

ロシア木材関連製品の2014年第1四半期生産量

品目	生産量	前年同期比 (%)
製材品 (100万m ³)	5.1	1.1
産業用チップ (100万m ³)	1.0	-7.9
木材パルプ (100万トン)	1.9	5.6
紙 (100万トン)	1.2	4.9
板紙 (100万トン)	0.8	0.5
ダンボール紙及び単層ボード (100万m ²)	15.2	6.3倍
ダンボール箱 (1000トン)	37.8	18.7
非ダンボール紙パック (1000トン)	42.8	34.2
合板 (100万m ³)	0.9	3.1
パーティクルボード (換算、100万m ³)	1.7	1.0

(本文は現地レポートを基に編集したもの)